

視察報告書

4 年 10 月 25 日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会
(代表) 議員 田村閑美



政務活動費により行政視察を実施しましたので、次のとおり報告します。

記

1 視察期間 4年 10月 19日 (水) から 4年 10月 21日 (金) まで

2 視 察 先

長野県長野市、飯田市

3 視察議員名

田村閑美

4 面 会 者

全国市議会議員、飯田市長、飯田市市民共同環境部職員3名

5 視察目的

全国市議会議長会研究フォーラム、視察参加
飯田市環境モデル都市行動計画の研修

6 視察の経過及び感想

別紙添付

7 添付書類

全国フォーラムプログラム、全国フォーラム参加写真、視察先写真、
参加者交換名刺

飯田市役所内写真、研修資料写真、飯田市長、担当職員交換名刺



要した経費： 1 人合計 72,820 円

視察の経過及び感想

令和4年10月19、20日の2日間、全国市議会議長会研究フォーラム in 長野に初参加させて頂きました。大会テーマは「デジタルが開く地方議員の未来」。19日は13時からホクト文化ホールにて開催。参加人数が2100人にもものぼる活気ある大会でした。

基調講演は「コロナ後の地域経済」富山和彦氏によるもので、デジタル革命、みちのりホールディングス、自動運転バス、AI活用や日本共創プラットフォームの説明を頂きました。続いてパネルディスカッションでは「地方議会のデジタル化の現状、課題と将来の可能性」と題し、毎日新聞社論説委員、人羅格氏をコーディネーターとし4人のパネリストによるトーク、パネリストは早稲田大学、東京大学、明治大学の教授と女性の長野市議会議長によるものでした。

倉吉市でも進めている市議会のデジタル化問題の取り組み状況を胸中に思いつつ、それぞれが必要性を語って頂く内容に共感しながら聞かせて頂きました。

次の日は同会場にて、朝9時から課題討議として「地方議会のデジタル化の取り組み報告」として、取手市議会議長、可児市議会議長、西脇市議会議長の3名から特色ある事例報告がありましたが、倉吉市としてもこれからスピード感を持ってしっかり取り組んで行かなければならないと、深く感じたフォーラムでした。

終了後、すぐに7つの視察に分かれ、待機していたバスにそれぞれ乗車しました。私が申し込みをしたFコースは「飯綱町:6次産業化の先進的な取り組みと閉校した小学校の再活用事例への視察」で、開拓しながら葡萄栽培に取り組み、ワインの普及販売に幅広く取り組んでるサンクゼールワイナリー本社と廃校になった小学校、いいづなコネクトWESTでした。どちらも本市でも抱える問題を実践している取り組みで、今回の視察時間だけでは足りないほど聞きたい事、これから先の事を見たいと後ろ髪を引かれる思いで視察は終了しました。短時間で網羅するのは無理ですが、もっと内容を勉強し本市に活かせないかと思うきっかけになる視察でした。

その後、長野市の観光スポットや美味しい蕎麦を食べる時間も無く、1人で次の飯田市にバスで向かい夜着でした。長野市から飯田市は高速バスで3時間半かかる距離のある場所でした。10月14日、倉吉市議会で地球温暖化防止や脱炭素について理解促進を図る勉強会が開催された内容事例で飯田市の取り組みが取り上げられており、せっかくの長野県入りとの事で面談説明を求めました。

21日の朝、8時45分に飯田市役所にて迎えられ、3名のプロフェッショナルな担当者に話を伺いました。発想はシンプルだけど、人として、地域に住む者として必要なエネルギーを住民参加で回す事、住民が生きるために必要なエネルギーを確保する事、それをみんなで使う

事…等、ドイツで学んだ事のある職員の体験も参考に取り入れ活用されていました。上手にそれぞれまとめた参考資料も頂き、私 1 人では抱えきれない深い話を頂き、今度は是非倉吉市で沢山の議員や職員に聞いて欲しいと強く感じています。

飯田市の人口は倉吉市の 2 倍程の人口で山に囲まれた静かな町でした。市役所の受付には制服を着たコンシェルジュが 2 名おり、様子を見ながら声をかけてくださる、明るく暖かい市役所でした。

長野県での 3 日間晴天に恵まれ、神々しくそびえ立つ山々に囲まれた地での視察研修は今後、本市へしっかり貢献出来るよう取り組んで行きたいと強く感じさせて頂く貴重な視察でした。

差出人: 田村閑美
件名: 長野市

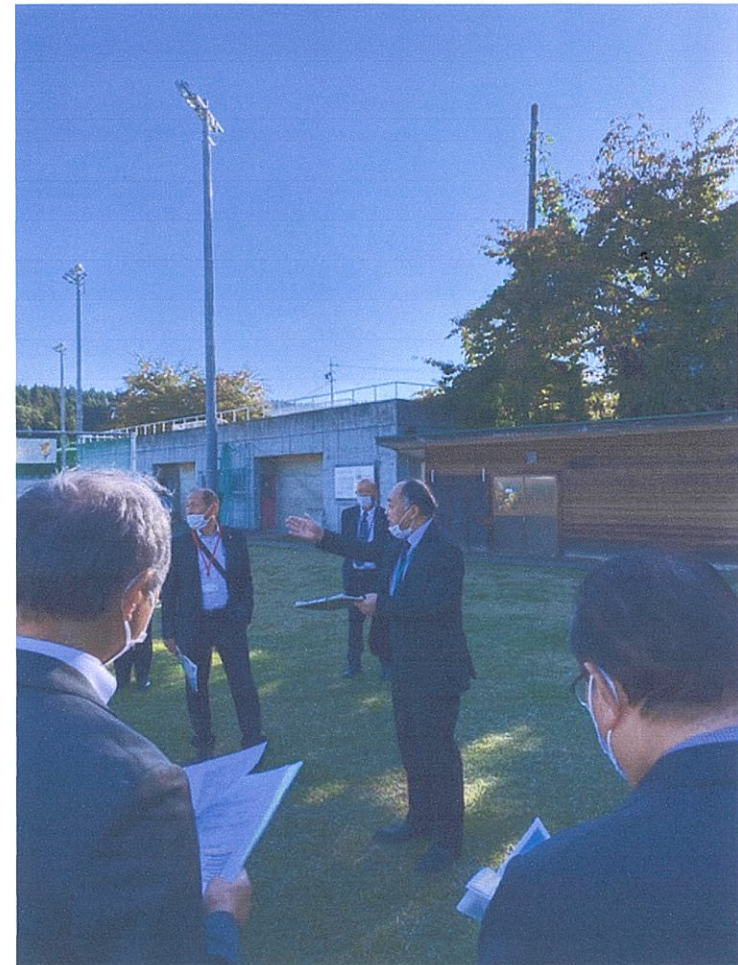
宛先: Tamura Shizumi



視察 サークルワイナリー



視察 サクゼーレ・ワイナリー



ハイアット WEST

差出人: 田村閑美
件名: 飯田市

宛先: Tamura Shizumi



いいおじ WEST